

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回5月の「てがたん」は5月11日(土)で「鳥のさえずりと子育て」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは**5月4日(土)**です。よろしくお願いいたします。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道
- 観察日時/天気 2013年4月13日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数 40名 (一般25人、子ども15人)
- 市民スタッフ 10名 (伊東茂子、岡廣志、木村稔、小泉伸夫、須貝基康、竹本周平、弘實さと子、古川克彌、松村定雄、村田富美子、保田行弘、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 3名 (小田谷嘉弥、塩田いづみ、村松和行)

観察記録 - 4月てがたんで観察した生き物リスト-

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：コブハクチョウ、カルガモ、オナガガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ/クイナ科：バン、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン/外来種や家禽：ドバト

【両生類】

ウシガエル、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、アズマヒキガエル (おたまじゃくし)

【昆虫・クモ】

甲虫の仲間：コガタリハムシ、ハンノキハムシ/チョウ・ガの仲間：モンシロチョウ、ルリタテハ、キタテハ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、アゲハ、キアゲハ、ツマキチョウ/カメムシの仲間：ヨコヅナサシガメ/アリの仲間：クロヤマアリ/ハチの仲間：コアシナガバチ/バットの仲間：ヒシバッタ、キンヒバリ

【花】

キク科：オニタビラコ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ノゲシ、ハルジオン、チチコクサモドキ、オニノゲシ、ノボロギク/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、ムシクサ、カワチシャ/バラ科：ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、シロヤマブキ (植栽)、ユキヤナギ (植栽)/マメ科：カラスノエンドウ/アブラナ科：タネツケバナ、ミチタネツケバナ、ナズナ、ノミノフスマ、ノミノツツリ、セイヨウアブラナ、セイヨウカラシナ/キンポウゲ科：ケツネノボタン/ナデシコ科：ノミノフスマ、コハコベ、ハコベ、ノミノツツリ、オランダミミナグサ/アカネ科：ヤエムグラ/ムラサキ科：キュウリグサ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/ユリ科：ハナニラ/イグサ科：スズメノヤリ/イネ科：スズメノテッポウ、チガヤ/アケビ科：アケビ/ニレ科：ケヤキ (植栽)、エノキ/クワ科：ヤマグワ/ツツジ科：オオムラサキツツジ (植栽)

【その他 植物】

トクサ科：スギナ (ツクシ)

4月の観察アルバム



今月の案内人 弘實さと子さん



今回のてがたんのテーマは「桜に集う鳥」でした。植物はソメイヨシノやオオシマザクラなどに比べて、開花が遅い八重桜を中心に観察しました。サクラの樹上では、カワラヒワやシジウカラなどを観察しました。また交尾するスズメの姿も見られ、繁殖期の訪れを感じました。カエルの仲間も活発に動き始め、これから水田が賑やかになる季節を迎えます。



花びらの色が濃い「関山」は庭木としてもよく利用される



外側の花びらに細かい切れ込みが多い「松月」



「梅護寺数珠掛桜」の原木は新潟県にあり、国の天然記念物に指定されている



遊歩道の近くで餌を探していたカルガモの番



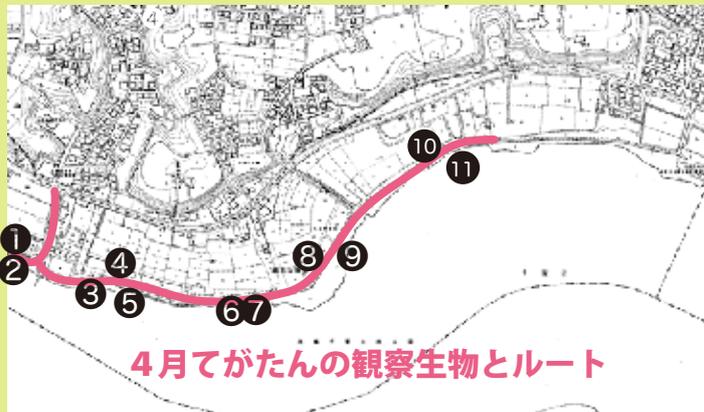
スズメノヤリの花をよく見ると短い毛がある

好きな桜餅はどっち？	
道明寺	23人
長命寺	14人

桜餅の葉は食べる？	
食べる	35人
食べない	5人

全参加者数45人

桜餅アンケート結果

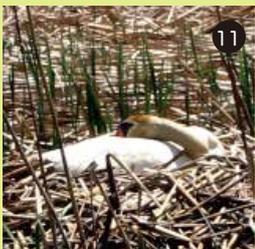


4月てがたんの観察生物とルート

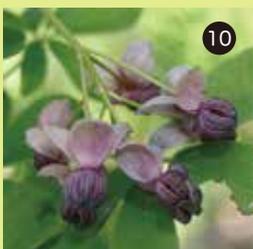


カエルウォッチング

水路にいたウシガエルを観察しました。当日は他にトウキョウダルマガエルやニホンアマガエルも観察しました。



抱卵中と思われるコバクチョウの雌



手賀沼遊歩道の生垣で咲いていたアケビの花



「普賢象」の葉化した雌しべ



八重桜よりも早く花が終わるオオシマザクラには果実がついていた



写真：オオシマザクラ

サクラの葉には蜜腺があり、アリなどを誘引して害虫から身を守ると言われている

今月の鳥 コイカル (スズメ目アトリ科)

コイカルはカワラヒワと同じアトリ科の鳥で、日本には主に冬鳥として少数飛来し、局地的に繁殖の記録もあります。

手賀沼周辺ではじめてコイカルが確認されたのは1999年2月で、雌雄合わせて11羽の群れが記録されました。その年の5月には巣立ちビナも観察されています。しかし、ここ数年は手賀沼遊歩道に単独で姿を現す程度で、カメラマンやバードウォッチャーの話題の鳥になっています。



コイカル♂



コイカル♀

丈夫な嘴で主に木の実や種を食べます。遊歩道沿いではサクラの花やイラガのマコなどを食べる姿も観察されています。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回の参加もお待ちしております！